

ある研究者の「死」

あまりにも突然でまだ信じられない。16 日午後、横浜国立大学教授の金澤史男さんが亡くなった。1 時からの講義を終えた直後に倒れ、救急車で近くの病院に運ばれたが、息を引き取ったという。

たまたま最近、金澤さん出演の映像と論説を講義の資料に使った。2007 年 11 月 20 日放映の NHK クローズアップ現代で「地方新税」を取り上げたが、講義で森林環境税を説明する際に映像の一部を流した。金澤さんは神奈川県の森林環境税の研究会座長を務めていたこともあり、新税導入の背景などについてコメントしていた。もう 1 つは、5 月 29 日付自治日報に掲載された「地方を苦しめる 3 つのドグマ」という主張である。自治体の規模を拡大すべきという命題、地方にできることは地方にという命題、自治体が地域経済に責任を負っているという命題、という 3 つのドグマを取り上げる。三位一体改革や平成の大合併といった小泉「構造改革」に対する、金澤さんらしい鋭く説得力ある批判だ。最後に、「日本の常識は世界の非常識」とならないよう、自治と自治体政策を見る目を鍛えていかねばならないと主張する。

金澤さんは私より 5 歳も若いですが、研究者としての個性と風格が感じられた。学会でも以前から中核に位置し、多くの若手研究者を育ててきた。

若手研究者との共同研究の成果は、2002 年に『現代の公共事業』として刊行された。金澤さん執筆の肉厚の序章と第 1 章は、公共事業の理論と政策を展望するうえで示唆に富む。その翌年に拙著『公共事業と財政』を刊行したこともあり、この頃からお互いに親近感を持つようになった。08 年には 02 年以降の共同研究の成果として『公私分担と公共政策』が刊行された。金澤史男編による長年にわたる共同研究の成果は、公共事業や公共政策の基本文献として読み継がれていくと思う。

金澤さんはこのほかにも数々の編著を刊行され、日本財政史の研究でも知られている。多くの若手研究者とともに、共同研究の成果を刊行する金澤さんを羨ましく思ったこともある。組織力やリーダーシップのある金澤さんは研究科長になり、大学行政の中核を担うことになる。これまた、ちょうど同じ頃に私も研究科長になり、お互いに「愚痴」を言い合ったことを記憶している。

それにしても、あまりにも早すぎる金澤さんの「死」がショックであり、残念でならない。心から金澤さんのご冥福をお祈り申し上げます。

(2009 年 6 月 21 日 記)